

STAGE+を楽しむ(169)(HP 収載)
—クライバーのベートーヴェン交響曲第 7 番—

1. 始めに

前報(168)に引き続き、STAGE+のクライバーのベートーヴェン交響曲第 7 番の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回はクライバーのベートーヴェン交響曲第 7 番の演奏を選びました。

カルロス・クライバー、その天賦の才：ベートーヴェン交響曲第 7 番
コンサートヘボウ管弦楽団

収録日：1983 年 10 月

20 世紀の終わり頃には神格化されていた名匠カルロス・クライバーですが、晩年はめったに指揮台に立たなくなり、演奏会の予定が発表されるだけで大きな話題を呼ぶ程でした。残した録音の数も非常に少なく、いずれも今なお最高の名盤として圧倒的な支持を得ています。ベートーヴェンの交響曲第 7 番はドイツ・グラモフォンに残したウィーン・フィルとの録音も超絶的な名演ですが、1983 年 10 月に収録されたこのロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団との演奏映像は更に晴れやかな熱気に溢れ、フィナーレの嵐のような盛り上がりも圧倒的です。

演奏：

ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団

指揮：

カルロス・クライバー

曲目：

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン 交響曲第 7 番イ長調 op. 92



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

この曲は躍動的な表情が特徴ですが、クライバーの指揮はいやがうえにもその特性を十全に引き出して、重厚なコンサートヘボウを迫力ある演奏に導いています。クライバーの指揮は見るだけで、オーケストラの抑揚が聴こえてくるようですが、終盤に至っては鬼気迫るような演奏になっています。



4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、クライバーの指揮とそれに応えるコンサートヘボウの迫力ある演奏を十全に引き出しています。

以上